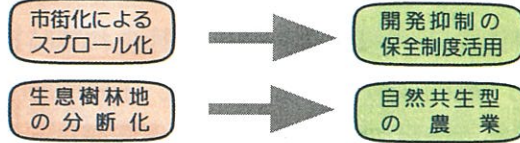


図IV-3 地域別環境特性モデル《台地・丘陵帯（南部）》

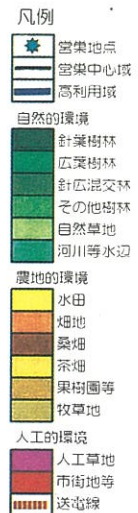
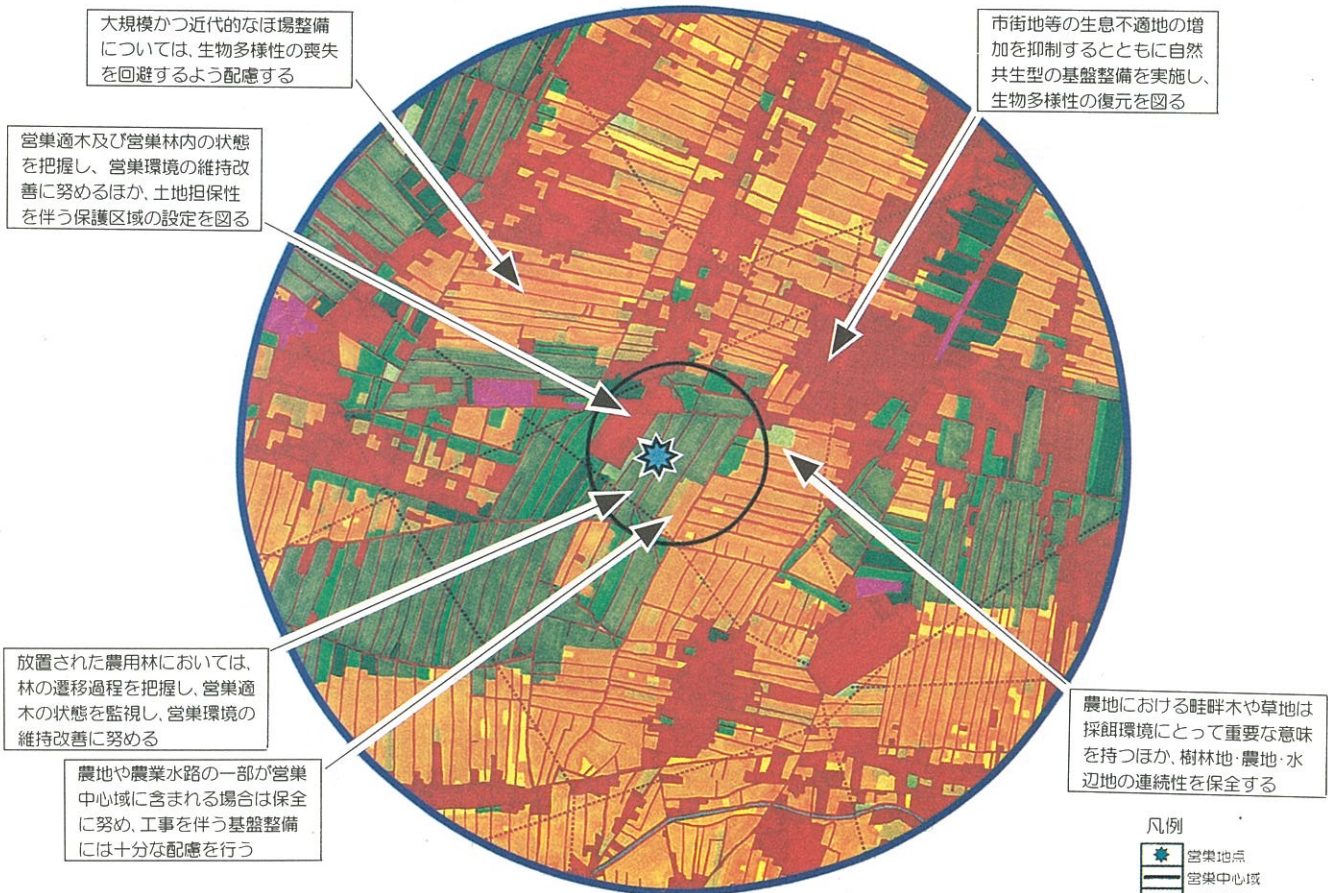


●オオタカ生息地における現況の評価（台地・丘陵帯全域）

- ・営巣地確認箇所は28箇所、うち繁殖の成功が確認されたのは16箇所である（1998年12月現在）。
- ・営巣木の規模が平均で約100ha、営巣木は主に針広混交林内のアカマツを中心とした針葉樹が使用されているが、森林の遷移に伴う営巣環境としての質的な問題が懸念される。
- ・生息環境は、自然的環境・農地的環境・人工的環境がそれぞれ約3割ずつ存在するが、生息適地の分断化や消失による質的・量的な問題が懸念される。

●保護方策検討のための調査のポイント（台地・丘陵帯全域）

- ・既往情報の収集に際しては、地域の住民や観察者のほか、周辺で農作業をしている人から聞き込みを行う。
- ・踏査に際しては、事前に地権者の了解を得て行き、樹林地以外の周辺農地も注意深く観察する。
- ・定点調査に際しては、山地部に比べ起伏が少ない地域であるため、山地部の調査よりも多くの定点を設置する必要がある。見はらしの利く場所を定点に選ぶことが効率的である。



●上図モデルにおける高利用域内環境条件

自然的環境	26.3	樹林地	25.5	針葉樹林	4.2
				広葉樹林	5.7
				針広混交林	15.6
				その他樹林	0
		自然草地	0.5	自然草地	0.5
		河川等水辺	0.3	河川等水辺	0.3
農地的環境	36.8	水田	0	水田	0
		畑・牧草地等	36.8	畑地	31
				桑畑	0
				茶畑	2.6
				果樹園等	3.2
				牧草地	0
人工的環境	36.9	人工草地	0.8	人工草地	0.8
		人家等市街地	36.1	市街地等	34.3
		道路 鉄道 送電線		送電線	1.8

※数値は%

